

シリーズ

「私の木語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



「職藝学院の森」



専門学校 職藝学院
環境職藝科 准教授
柳 真子

■自己紹介

富山県にある木造建築（大工）、インテリア（家具・建具）、庭づくり（造園・ガーデニング）のプロの技術者育成をめざす専門学校で造園部門を担当しています。

■活動内容

全国的な職人の減少による伝統の技能・文化を担う大工・庭師の必要性に伴い、平成八（一九九六）年に開学しました。



建築職藝科（大工）実習
（自分で鑿を研ぎ木材加工）

建築職藝科（大工・家具・建具）の学生は、大工道具（鑿・鉋など）の手入れ・扱い方から、無垢の木材加工による実際の建物づくりや、家具・建具づくりまで学びます。学内の実習棟（五棟）は学生実習で建てたものです。道具が使えるようになり経験を積むと、積雪で根元が曲った材も、学んだ技術を活かして、適所に使うことができようになるります。

環境職藝科の学生は、木鋏を研ぎ剪定実習に臨み、実際の庭づくりまで学びます。

特色ある

授業として、建築と環境の学生が合同で、山林の樹木生育・伐採現場、木材の流通を学ぶ「川上から



実践道場 「川上から川下へ」

川下へ」や、家づくりと庭づくり（住宅や庭の設計）を同時に学ぶ授業などもあります。

■メッセージ

私達が「職藝学院の森」と呼ぶ、キャンパス内の約三五〇〇平方メートルの天然生林を残すために、建物は敷地の端に配置されています。数十年前から薪炭林としては利用されなくなった「森」の大部分は、今でもあまり手を加えないように管理しています。

学生は講義棟から「森」を通って実習棟へ移動します。四季折々の植物の状態を目にすることにより、植物本来の性質や生育環境を、学生はより深く理解するようになります。

「森」を通るのは学生ばかりではありません。動物達もしばしば姿を現します。ニホンザルは群れで

現れ、追いかけてっこ。めったに姿を見せないニホンカモシカも、足跡で通過を知らせてくれます。職藝学院で二年間過ごした学生は、動物を含めた自然との関わり方を感覚として身につけ、卒業していきます。「森」は生きた教材として大切な役割を果たしています。



職藝学院の森

○連絡先

専門学校 職藝学院
〒九三〇一―二九九
富山県富山市東黒牧二九八
TEL 〇七六―四八三―八二二八
<https://www.shokugei.ac.jp>

